

地域スポーツクラブに関する研究

— 家庭婦人バレーボールクラブへの所属年数と
クラブ活動の関係について —

新 谷 崇 一
(一般体育理論・実技)

I はじめに

スポーツクラブへの加入及びその活動には、個人が生活する地域社会と地域住民との関連はもとより、その活動を継続させていく個人の生活環境と、精神的、身体的、社会的条件が大きく関わってくる。特に、クラブ活動の継続ということは、これらの条件が満たされてはじめて成立するものである。

そのような意味から、現在スポーツクラブに所属して活動を継続している婦人の実態を把握することは、その条件をいかに克服して今日に至っているのかを明らかにするものである。また、スポーツクラブへの所属年数には過去、現在、未来という時間的経過の過程において、クラブ継続のために様々な障害要因に直面し、それを克服してきた実績とクラブ活動に対する姿勢の相違がそこに隠されているものと言える。従って、所属年数からそれらを明らかにすることは、今後スポーツクラブへ加入しようとする者、またクラブ活動を継続させようとする者に対して適切なアドバイスを与えるものと考えられる。

以上より、本稿においては対象者を表 I-1 のように、福島県家庭婦人バレーボールクラブへの所属年数が 2 年未満、2 年～5 年、5 年以上の三グループに分類して、それらからのクロス集計とクロス集計に対するカイ自乗検定の結果に基づいて考察を進めていく。

また、本稿より使用するデータは、前稿「地域スポーツクラブに関する研究——その予備的考察——」⁽¹⁾の巻末に掲載した調査結果のデータに、新

表 I-1 所属年数

所属年数 人	1年未満	1~2年	2~3年	3~4年	4~5年	5年以上	不明	
	分類	85	114	126	88	60	227	5
	2年未満		2年～5年			5年以上		

たに 2 チーム、14 名を追加し、同時にデータカードの見直しによって得られた 61 チーム 705 名に基づくものである。従って、前稿において掲載した調査結果にも変化をきたし、最新の調査結果は本稿の巻末に示す通りである。

尚、本稿の II 以降で使用する「スポーツクラブ」とは、全て「福島県家庭婦人バレーボールクラブ」を指すものであり、それ以外の意味で使用する場合はその都度注釈を加えることとする。

II スポーツクラブ所属者の余暇活動

家庭婦人の生活時間（表 II-1）⁽²⁾における余暇行動の過去 10 年間の推移において顕著な伸びを示しているのはレジャー活動である。昭和 45 年のレジャー活動時間は、平日 24 分、土曜日 24 分、日曜日 56 分であったのが、昭和 55 年には平日・土曜日とも 15 分増、日曜日 6 分減という変化を示している。

この変化は、従来余暇行動が休日に片寄っていたものが、週休二日制の導入などにより土曜日へ移行したことから、家庭婦人のレジャー活動が休日

表 II-1 家庭婦人の生活時間（全員平均時間）

(単位：時間、分)

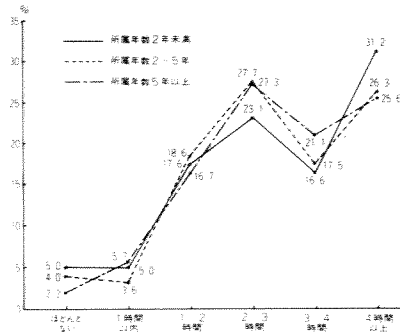
		平日			土曜日			日曜日		
		45年	50年	55年	45年	50年	55年	45年	50年	55年
		生活必需	すいみん	7.39	7.30	7.33	7.32	7.35	7.38	8.16
労働	食事	1.44	1.45	1.44	1.44	1.49	1.46	1.47	1.50	1.49
	身の回りの用事	1.01	1.13	1.00	1.01	1.04	1.02	59	1.03	59
	家事	1.12	1.10	1.06	1.23	1.05	1.04	51	44	34
移動	仕事	7.57	7.46	7.36	7.38	7.41	7.14	6.26	6.40	6.23
	通勤	13	12	23	13	15	28	15	20	31
	交際	46	50	51	55	54	58	1.09	1.11	1.11
余暇行動	休養	40	40	41	40	42	40	40	39	40
	レジャー活動	24	29	39	24	24	39	56	43	50
	新聞・雑誌・本	27	27	37	23	31	36	19	22	30
	ラジオ	26	33	45	21	27	37	14	18	22
	テレビ	4.30	4.57	4.44	4.26	5.01	4.27	4.27	4.38	4.25
自宅外で過ごす時間		2.51	3.07	3.11	3.18	3.11	3.37	3.46	3.41	3.44

に限定されず、普段の日常生活の中にも融け込んできたことによるものと考えられる。

家庭に束縛されていた婦人の生活時間にこのような変化をもたらした大きな原因は、高度経済成長による生活の簡便化のみならず、地域社会における様々なコミュニティ活動の発展によるものと考えられる。その一例として、地域社会におけるスポーツクラブを挙げることができる。

そこで、スポーツクラブに所属している婦人の余暇活動の現状から探ってみたい。

図II-1 所属年数別、1日の自由時間



まず、「束縛されずに自由に使える1日の時間」を所属年数別に示したのが図II-1である。これによると、各所属年数間に大きな変化はなく一定の傾向が見られ ($\chi^2=45.786$ $df=28$ $P=.018$)³⁾、各所属年数とも1日2~3時間、または4時間以上の自由時間を所有しているのが主である。しかし、スポーツクラブの活動には日常生活時間から切り離された一定の時間が要求されるものであり、所属年数2年未満のグループの自由時間の所有量の第1位が4時間以上であることは、スポーツクラブへの加入及び継続には自由時間の量が大きな鍵を握っているものと考えられる。

表II-2 所属年数別、自由時間の過ごし方

2項目まで選択可

過ごし方	所属年数		2年未満		2年~5年		5年以上		無記不明		全体	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
習い事 (稽古事)	10	5.0	25	9.1	22	9.7	0	0	57	8.1		
創作趣味 (手芸・絵画など)	26	13.1	33	12.0	28	12.3	0	0	87	12.3		
園芸・盆栽	7	3.5	11	4.0	17	7.5	2	40.0	37	5.2		
学習活動 (読書・通信教育など)	14	7.0	25	9.1	11	4.8	0	0	50	7.1		
音楽鑑賞 (レコード・FMなど)	11	5.5	8	2.9	7	3.1	0	0	26	3.7		
スポーツ (体を動かすこと全般)	100	50.3	172	62.8	132	58.1	1	20.0	405	57.4		
近所付き合い	54	27.1	32	19.0	46	20.3	2	40.0	154	21.8		
何もせず (テレビなどを見ながら) 休養にあてる	44	22.1	90	32.8	63	27.8	1	20.0	158	22.1		
その他	34	17.1	33	12.0	38	16.7	0	0	105	14.9		
無記不明	8	4.0	11	4.0	10	4.4	1	20.0	30	4.3		

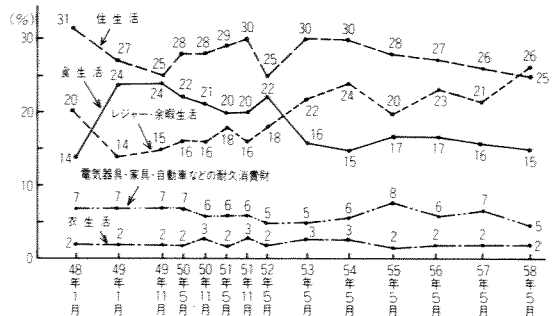
次に「自由時間は一週間平均すると主にどのような過ごし方」をしているのかを見ると表II-2の通りである。これによると、各所属年数とも「スポーツ(体を動かすこと全般)」が第1位となり、日常生活の中における重要な余暇活動の1つであることが理解できる。しかし、このこととは対照的に「何もせず(テレビなどを見ながら)休養にあてる」が第2位を占め、先の国民生活時間調査の余暇行動におけるテレビの視聴時間、及び休養時間の占める割合からもその順位が理解でき、余暇時間の積極的活用の対象と考えられるものである。

表II-3 所属年数別、日常生活における充実感

2項目まで選択可

項目	所属年数		2年未満		2年~5年		5年以上		無記不明		全体	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
家族だんらんするとき	95	47.7	121	44.2	106	46.7	2	40.0	324	46.5		
仕事にうちこんでいるとき	30	15.1	55	20.1	55	24.2	0	0	140	19.9		
ゆったりと休養しているとき	17	8.5	31	11.3	24	10.6	0	0	72	10.2		
友人や知人と会合雑談をしているとき	34	17.1	49	17.9	30	13.2	1	20.0	114	16.2		
趣味やスポーツに熱中しているとき	133	66.8	191	69.7	159	70.0	3	60.0	486	68.9		
勉強や教養に身を入れているとき	4	2.0	5	1.8	3	1.3	0	0	12	1.7		
社会奉仕や社会活動をしているとき	3	1.5	4	1.5	5	2.2	0	0	12	1.7		
その他	4	2.0	6	2.2	4	1.8	0	0	14	2.0		
無記不明	4	2.0	4	1.5	7	3.1	1	20.0	16	2.3		

図II-2 生活の力点



また「日常生活において、充実感を感じる」ときは表II-3の通り、各所属年数とも「趣味やスポーツに熱中しているとき」が第1位であり、しかも所属年数が増加するにつれその割合が高くなっている。この結果を「レジャー・余暇生活」に生活の力点を置く者が増加してきていることを示している図II-2⁴⁾と併せて見ると、スポーツクラブ所属者にとって、クラブ活動は日常生活の一部であり、生活時間の中に完全に組み込まれてきていることが理解できる。

以上から、スポーツクラブ所属者の余暇活動を

以下のようにまとめることができる。

スポーツクラブへの加入から継続には、自由時間の量の問題は大きな鍵となるが、現在スポーツクラブに所属している婦人は限られた自由時間を有効に使用して、スポーツクラブの活動にあてていることが伺える。また、現在スポーツクラブ所属者を対象とした調査であるとはいえ、スポーツクラブの存在は、国民の生活の力点からも裏付けられるように、家庭婦人の日常生活のリズムの中に完全に根付き、余暇活動の重要な一端を担い、それは所属年数の増加と共に定着度も増している。

III スポーツクラブ所属者のクラブ加入と現在の活動

1. スポーツクラブへの加入の動機

「クラブへの加入及び活動ということは、個人の生活環境によって生まれた自由時間が、精神的、身体的、社会的条件というフィルターを最終的に通過して生まれた自由時間の活用による」⁽⁵⁾ ものであると述べてきたが、本稿においては加入の動機をスポーツクラブの継続ということに結びつけて、個人の精神的、身体的条件から眺めてみたい。

表III-1 年令層別、所属年数

所属年数	年令 人・%	年令				
		20~29才	30~34才	35~39才	40~44才	45才以上
2年未満	人	40	69	57	27	6
	%	62.5	35.2	28.4	17.6	6.6
2~5年	人	20	96	86	52	20
	%	31.3	49.0	42.8	34.0	22.0
5年以上	人	4	29	57	74	63
	%	6.3	14.8	28.4	48.4	69.2
無記不明	人	0	2	1	0	2
	%	0	1.0	0.5	0	2.2

表III-1は、年令層別に見た所属年数である。これによると、年令層が高くなるにつれて、スポーツクラブへの所属年数も長くなる関係が見られる ($\chi^2 = 191.274$ df = 42 P = .000)。このことは単に年令の増加と共に所属年数も長くなることを示すだけでなく、スポーツクラブのメンバーは30代を中心として構成されていると同時に、スポーツクラブへの加入の時期は30代前半から半ばにかけてであることが考えられる。

そのような加入の時期にあって、その加入の動機はどのようなものであるかを探てみたい。

表III-2は各所属年数別に加入の動機を示したものであるが、各所属年数ともその動機は「友達の勧誘により」、「健康のため」、「自分から積極的に」

表III-2 所属年数別、加入の動機 2項目まで選択可

加入の動機	所属年数		2年未満		2年~5年		5年以上		無記不明		全体	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
自分から積極的に	58	29.1	79	28.8	83	36.6	1	20.0	221	31.3		
友達の勧誘により	114	57.3	156	56.3	105	46.3	1	20.0	376	53.3		
健康のため	73	36.7	118	43.1	112	49.3	1	20.0	304	43.1		
友人(話し相手)を得るため	7	3.5	11	4.0	16	7.0	0	0	34	4.8		
単調な日常生活からの脱皮のため	21	10.6	18	6.6	5	2.2	1	20.0	45	6.4		
テレビ等のバレーの試合に魅せられて	2	1.0	3	1.1	3	1.3	0	0	8	1.1		
人がやっているのを見てなんとなく	4	2.0	2	0.7	1	0.4	0	0	7	1.0		
その他	3	1.5	3	1.1	5	2.2	0	0	11	1.6		
無記不明	4	2.0	7	2.6	6	2.6	1	20.0	18	2.6		

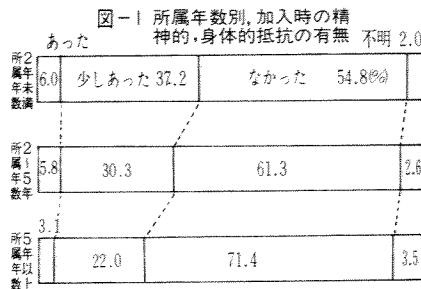
が主で、あまり大きな相違は見られない。しかし、所属年数5年以上のグループにおいて「健康のため」が第1位に現われていることは、スポーツクラブの継続の要因には健康というものに対する強い意識が潜んでいるようである。

つまり、加入の動機が友人からの勧誘にせよ、本人の積極性にせよ、その根底には健康を意識した動機が潜んでいることがこのデータより伺える。

表III-3 所属年数別、クラブ所属経験の有無

所属の有無	所属年数		2年未満		2年~5年		5年以上		無記不明		全体	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
バレーボールクラブ所属の経験がある	96	48.2	146	53.3	118	52.0	1	20.0	361	51.2		
バレーボールクラブ以外のスポーツクラブの所属の経験がある	61	30.7	79	28.8	67	29.5	3	60.0	210	29.8		
スポーツクラブ所属の経験はない	37	18.6	41	15.0	39	17.2	1	20.0	118	16.7		
無記不明	5	2.5	8	2.9	3	1.3	0	0	16	2.3		

次に、加入に際して過去の経験は大きな自信となって現われてくるものと考えられる。表III-3は「過去(学校時代)におけるスポーツクラブ所属の有無」を質問したものであるが、各所属年数とも約50%の者がバレーボールクラブ所属の経験を有し、約30%の者が何らかのスポーツ(運動)クラブ所属の経験を有している。しかし、過去のスポーツ(運動)クラブ所属の経験の有無は、加入の際の自信につながるとしても、所属年数の長短とは大きな関係は見られない。つまり、スポーツクラブの継続との大きな関係はなく、今後経験の無い者も抵抗なく加入できるようなスポーツクラブも考えられる



ことが必要である⁽⁶⁾

また図III-1は「加入の際に精神的、身体的な抵抗の有無」を質問

したものである。これを所属年数別に見ると、所属年数が増加するにつれて「なかった」と答える者が多くなる傾向を示しており($\chi^2=53.622$ $df=16$ $P=.000$)、加入時における精神的、身体的な抵抗の有無はスポーツクラブの継続において非常に重要な要因と考えられる。従って、加入時におけるこれらの抵抗の緩和のために、できる限り早期(若令)にスポーツクラブへ加入するなり、また周囲のクラブ員の協力などが要求される。

以上から、スポーツクラブへの加入の動機を、スポーツクラブの継続ということにおいてまとめると以下ようになる。

加入の動機が友人からの勧誘にせよ、本人の積極性にせよ、加入の目的を例えば健康のためにとりように明確にすることにより継続も可能となる。またスポーツクラブは何らかのスポーツ(運動)クラブ所属の経験者である30代を中心としたメンバーで構成されているが、加入時における精神的、身体的抵抗の緩和のためにもできる限り早期にスポーツクラブへ加入することがクラブ継続の大きな要因と考えられる。スポーツ(運動)クラブ所属の経験の無い者も、加入時における様々な抵抗に問題を残すだけで、継続ということにおいては特別な障害要因とはならない。

2. スポーツクラブ参与に関わる諸変化

スポーツクラブの継続には、個人の精神的、身体的条件のみならず、個人を取り巻く社会的条件も大きく左右する。これらの諸条件を克服することによってスポーツクラブの継続も可能となり、個人に対しても、また個人を取り巻く環境にも何らかの変化をもたらすものと言える。

表III-4は所属年数別に見た職業構成である。これによると、各所属年数とも専業主婦が第1位という傾向を示している($\chi^2=48.408$ $df=32$ $P=.032$)

表III-4 所属年数別、職業構成

所属年数	所属年数別、職業構成								
	専業主婦	パート	会社員	公務員	自営業	農漁業	その他	無記不明	
2年未満	人	89	22	43	8	18	7	10	2
	%	44.7	11.1	21.6	4.0	9.0	3.5	5.0	1.0
2年5年	人	89	55	36	17	44	11	20	2
	%	32.5	20.1	13.1	6.2	16.1	4.0	7.3	0.7
5年以上	人	63	38	44	11	49	8	14	0
	%	27.8	16.7	19.4	4.8	21.6	3.5	6.2	0
無記不明	人	2	0	1	2	0	0	0	0
	%	40.0	0	20.0	40.0	0	0	0	0

が、これは専業主婦が全体の3分の1を占めるためであると考えられる。しかし、これを職業別に所属年数を眺めた場合、そこには一定の傾向は見られないが、専業主婦以外の有職者の中には5年以上もスポーツクラブを継続させている者が多数おり、必ずしも就業ということがスポーツクラブの継続の障害要因であるとは言えない。

表III-5 所属年数別、家庭の理解度

項目	所属年数別、家庭の理解度											
	2年未満		2年-5年		5年以上		無記不明		全体			
人・%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
クラブへの参加に積極的に協力してくれる	57	68.7	98	56.8	111	48.9	3	60.0	269	58.2		
家庭に迷惑のかからない程度なら賛成	120	60.3	156	56.9	100	44.1	2	40.0	378	53.6		
あまり協力的でない	8	4.0	8	2.9	5	2.2	0	0	21	3.0		
家庭(夫)は無関心である	5	2.5	4	1.5	4	1.8	0	0	13	1.8		
無記不明	9	4.5	8	2.9	7	3.1	0	0	24	3.4		

また、スポーツクラブを継続していく上で一番重要な要因と考えられる「家庭の理解度」については表III-5の通りである。全体的には「家庭に迷惑のかからない程度なら賛成してくれる」が第1位を占めるが、その傾向は所属年数が短い程強い。逆に、所属年数が5年以上になると「クラブへの参加には積極的に協力してくれる」が第1位となり、所属年数の長短によって家庭の理解度も変化して行くことがわかる。

つまり、様々な条件を克服し、スポーツクラブを継続することにより、それが日常生活に定着してくると同時に家庭の理解も徐々に得られてくることを示している。

次に、個人の精神的、身体的、社会的諸条件を克服してスポーツクラブを継続させた結果どのような変化が現われたかを、精神的側面、身体的側面、社会的側面、家庭生活の面から眺めてみたい。

表III-6 所属年数別、精神的側面の変化

項目	所属年数別、精神的側面の変化											
	2年未満		2年-5年		5年以上		無記不明		全体			
人・%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
生活にゆとりが出てきた	4	2.0	7	2.6	8	3.5	0	0	19	2.7		
日常生活にハリが出てきた	93	46.7	126	46.0	96	42.3	1	20.0	316	44.8		
精神的に若返った	35	17.6	70	25.5	85	37.4	3	60.0	193	27.4		
ストレスがまらなくなり気分爽快になった	67	33.7	101	36.5	60	26.4	0	0	228	32.3		
以前より自信をもって行動するようになった	15	7.5	17	6.2	16	7.0	0	0	48	6.8		
社交性が増した	24	12.1	54	19.7	55	24.2	0	0	133	18.9		
あまり変化はない	31	15.6	25	9.1	14	6.2	0	0	70	9.9		
その他	4	2.0	2	0.7	2	0.9	0	0	8	1.1		
無記不明	5	2.5	3	1.1	6	2.6	1	20.0	15	2.1		

まず、精神的側面の変化については表III-6の通りである。これによると、各所属年数とも「日常生活にハリが出てきた」という変化を第1位に挙

げる傾向がみられ($\chi^2=49.589$ $df=36$ $P=.065$), 次いで「ストレスがたまらなくなり気分爽快になった」という順である。しかし、所属年数5年以上のグループは「精神的に若返った」を第2位に挙げていることより、所属年数の増加つまり年齢の増加と共に精神面のリフレッシュメントが見られるようである。

表Ⅲ-7 所属年数別, 身体的側面の変化

2項目まで選択可

項目	所属年数											
	2年未満		2年～5年		5年以上		無記不明		全体			
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
体調が良くなった	107	53.8	150	54.7	126	55.3	2	40.0	385	54.6		
食欲が旺盛になった	17	8.5	21	7.7	14	6.2	0	0	52	7.4		
体力が増した	33	16.6	52	19.0	42	18.5	0	0	127	18.0		
筋肉が引きしまり美しくなった	6	3.0	11	4.0	11	4.8	0	0	28	4.0		
健康について関心をもつようになった	37	18.6	66	24.3	66	29.1	0	0	171	24.3		
過労気味になった	2	1.0	6	2.2	7	3.1	1	20.0	16	2.3		
あまり変化はない	47	23.6	52	19.0	44	19.4	1	20.0	144	20.4		
その他	11	5.5	8	2.9	5	2.2	0	0	24	3.4		
無記不明	2	1.0	5	1.8	8	3.5	1	20.0	16	2.3		

次に、身体的側面の変化については表Ⅲ-7の通りである。これによると、各所属年数とも「体調が良くなった」という変化を第1位に挙げ、次いで「健康に関心をもつようになった」という傾向である($\chi^2=18.736$ $df=36$ $n.s.$)。しかし、所属年数2年未満は「あまり変化はない」を第2位に挙げ、全体で第3位となっている。

これは所属年数の短かさ、クラブ活動の回数(1週間に1～2回)等にその原因を見出すことができるであろうが、所属年数が2年～5年へと伸びることによって変化も起き、その後横這いの状態となる。従って、身体的側面の変化は個人差も見受けられようが、加入後1～2年頃から変化が見られるものと言える。

表Ⅲ-8 所属年数別, 社会的側面の変化

2項目まで選択可

項目	所属年数											
	2年未満		2年～5年		5年以上		無記不明		全体			
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
仲間(友人)が増えた	134	67.3	218	79.6	156	68.7	5	100.0	513	72.8		
視野が広がり話題が増えた	33	16.6	47	17.2	38	16.7	0	0	118	16.7		
地域行事への参加が積極的になった	24	12.1	53	19.3	49	21.6	1	20.0	127	18.0		
集団活動の喜びを味わえるようになった	44	22.1	56	20.4	52	22.9	0	0	152	21.6		
スポーツに対する理解が増えた	30	15.1	47	17.2	39	17.2	1	20.0	117	16.6		
あまり変化はない	18	9.0	4	1.5	2	0.9	0	0	24	3.4		
その他	1	0.5	2	0.7	2	0.9	0	0	5	0.7		
無記不明	3	1.5	5	1.8	9	4.0	0	0	17	2.4		

次に、社会的側面の変化については表Ⅲ-8の通りである。これによると、各所属年数とも第1位が「仲間(友人)が増えた」、第2位が「集団活動

の喜びを味わえるようになった」という傾向を示している($\chi^2=43.851$ $df=32$ $P=.079$)。

また「地域行事への参加が積極的になった」が全体で第3位に現われ、しかも所属年数が増加するに従ってその傾向が見られる。つまり、スポーツクラブそのものは地域のコミュニティ形成の役割をも果しているものと考えられる。

表Ⅲ-9 所属年数別, 家庭生活の面の変化

2項目まで選択可

項目	所属年数											
	2年未満		2年～5年		5年以上		無記不明		全体			
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
家庭の中に活気があふれてきた	25	12.6	35	12.8	40	17.6	1	20.0	101	14.3		
炊事や清掃を短時間でキチッと行う様になった	63	31.7	102	37.2	75	33.0	0	0	240	34.0		
家族も母親の行動(スポーツ, 社会活動)を理解するようになった	72	36.2	147	53.6	123	54.2	0	0	342	48.5		
子供達も家事に協力的になった	29	14.6	42	15.3	54	23.8	0	0	125	17.7		
練習や試合で時間が削られ、家事は手を抜くようになった	9	4.5	11	4.0	6	2.6	0	0	26	3.7		
練習や試合で時間が削られ、家庭内の会話が減った	4	2.0	5	1.8	5	2.2	0	0	14	2.0		
あまり変化はない	46	23.1	43	15.7	23	10.1	1	20.0	113	16.0		
その他	7	3.5	5	1.8	4	1.8	0	0	16	2.3		
無記不明	6	3.0	6	2.2	8	3.5	3	60.0	23	3.3		

最後に、家庭生活の面に見られる変化については表Ⅲ-9の通りである。これによると、各所属年数とも第1位が「家族も母親の行動(スポーツ, 社会活動)を理解するようになった」、第2位が「炊事や清掃を短時間でキチッと行う様になった」という傾向を示している($\chi^2=73.065$ $df=36$ $P=.000$)。

このことは、先の「家庭の理解度」において所属年数が増加するにつれて、その理解度も増加するということを裏付けているものであり、またスポーツクラブの継続は、自らの行動に変化をもたらすと同時に、家庭の中における母親の存在を明確に位置付けさせるものであると言える。

スポーツクラブの継続により、精神的側面、身体的側面、社会的側面、家庭生活の面の変化を総じて眺めると、精神的側面、社会的側面、家庭生活の面において各所属年数の間にはそれぞれ $P=.065$ $P=.079$ $P=.000$ において有意な差を見ることができた。また、各側面におけるその他の項目の変化を見た場合、所属年数が増加するにつれその変化のほとんどが個人の日常生活においてプラスの面として現われていることがわかる。また「あまり変化はない」という項目に対する数値が、身体的側面の変化を除いて所属年数の増加と共に減少してきていることより、スポーツクラブの継続は個人に対して何らかの変化を与えているものと考えられる。

IV ま と め

家庭婦人バレーボールクラブに所属している婦人の日常生活における余暇活動の実態と、スポーツクラブへの加入から継続に関する精神的、身体的、社会的条件と、クラブ活動が所属者にもたらす諸変化を所属年数の相違から眺めてきた。これらを、1. スポーツクラブとクラブ所属者 2. 加入から継続に関する諸事項、3. スポーツクラブ参加に関わる諸変化の三点からまとめると以下のようになる。

1. スポーツクラブとクラブ所属者

- ① スポーツクラブ員の年齢構成は20代から50代まで幅広く、現在30代を頂点とし40代20代という構成である。
- ② スポーツクラブ所属者の1日の自由時間は、2～3時間、または4時間以上が主であるが、自由時間の多少に関わらず、限られた時間をスポーツクラブ活動へ有効に使用している。
- ③ 現在、スポーツクラブ所属者にとって、クラブ活動は日常生活のサイクルの中に完全に組み込まれ、余暇活動の重要な一端を担っている。

2. 加入から継続に関する諸事項

- ① 現在のスポーツクラブへの加入時の年齢は、30代前半から半ばにそのピークを迎えているようである。
- ② スポーツクラブへの加入は、精神的、身体的な抵抗の緩和のためにも、できる限り早期（若令）が理想とされる。
- ③ 自由時間の量は、これからスポーツクラブへ加入しようとする時、及び所属年数の短い者が今後クラブ活動を継続させようとする時、重要な要因となる。
- ④ 加入の動機が友人からの勧誘にせよ、本人の積極性にせよ、例えば「健康のため」のように明確な目的を持つことがクラブ継続の第一条件である。
- ⑤ 過去におけるスポーツ（運動）クラブ所属の経験の有無は、加入時における様々な抵抗の差は幾分認められても、クラブ継続に関しての差はあまり見られない。
- ⑥ 職種とスポーツクラブへの所属年数の長短との間には関係が見られず、本人の積極的な取り

組みによりクラブ継続も可能となる。

3. スポーツクラブ参加に関わる諸変化

- ① スポーツクラブに対する本人の積極的な姿勢により、家庭の理解度（協力）も増し、それは所属年数の増加と比例する。
- ② 精神的側面の変化を所属年数別に見た場合、 $P = .065$ で有意な変化を示した。その主な変化は「日常生活にハリが出てきた」と「ストレスがたまらなくなり気分爽快になった」ことである。
- ③ 身体的側面の変化を所属年数別に見た場合、有意な変化は見られないが各所属年数とも「体調が良くなった」と「健康に関心をもつようになった」ことを挙げている。
- ④ 社会的側面の変化を所属年数別に見た場合、 $P = .079$ で有意な変化を示した。その主な変化は「仲間（友人）が増えた」と「集団活動の喜びを味わえるようになった」ことである。
- ⑤ 家庭生活の面における変化を所属年数別に見た場合、 $P = .000$ で有意な変化を示した。その主な変化は「家族も母親の行動（スポーツ、社会活動）を理解するようになった」と「炊事や清掃を短時間でキチッと行う様になった」ことである。
- ⑥ 各側面におけるその他の項目の変化を見た場合、所属年数が増加するにつれ、そのほとんどが個人の日常生活においてプラスの面として現われてきている。

。——。——。

以上、家庭婦人バレーボールクラブ所属者のクラブ活動について三点からまとめてきたが、最後に強調しておくべき事は「様々な条件を背負って地域スポーツクラブへ加入し、活動を継続させていくための基本的姿勢は、スポーツクラブに対する本人の確固たる意志と、そのクラブ活動に対する明確な目的を持つこと」である。その結果として、家庭からの理解も増し、精神的、身体的、社会的側面、及び家庭生活の面においてプラスの面が現われてくるものである。

次稿においては「地域スポーツクラブに関する研究——その在り方と将来性について——」を予定している。

注

- (1) 福島大学教育実践研究紀要第6号 1984年11月
RP. 85~94。
- (2) NHK放送世論調査所「国民生活時間調査」
1981年6月。
- (3) また、1日の自由時間を職業別に見た場合、以下のようになる。専業主婦4時間以上、パートタイマー2~3時間、公務員プラス会社員2~3時間、自営業1~2時間が第1位を示し、職業間に有意な傾向を示している ($\chi^2 = 158.473$ df=35 P=.000)。
- (4) 総理府「国民生活に関する世論調査」 1983年5月。
- (5) 前掲書(1) P. 86
- (6) 現在、福島県には皮バレーボールを使用した9人制バレーボール(本調査の対象者)の他に、ある程度レクリエーションを目的としたものとして、ゴムバレーボールによる8人制バレーボールが町内、または小学校区を中心として構成されており、市民体育祭などのプログラムの一部ともなっている。

〔付〕

巻末PP. 18 ~ 20 に本稿で使用した61チーム705名に対する単純集計のデータを掲載する。
尚、前稿「地域スポーツクラブに関する研究——その予備的考察——」の巻末PP.88~90に掲載したデータは59チーム691名に対する単純集計であり、データとして価値を損うものではない。

参 考 文 献

1. 経済企画庁国民生活局編 「コミュニティ形成に資する自由時間活動の構造分析調査」報告書——国民の自由時間活動の現状と課題—— 1984年2月
2. (財)余暇開発センター編 「余暇ハンドブック」
日刊工業新聞社 1982年
3. 影山健編 「国民スポーツ文化」 大修館書店
1977年
4. 日本体育協会 「日本人のスポーツ行動」
1974年

調査資料

表1 調査対象チーム、対象者数及び回収率

項目	地区						計
	県北	県南	いわき	相双	会津		
58年度福島県家庭婦人バレーボール登録チーム数	36	23	54	27	13	153	
調査対象チーム数	20	13	25	14	13	85	
回収率	チーム数	15	12	15	12	7	61
	%	75.0	92.3	60.0	85.7	53.8	71.8
調査対象者数 (人)	178	136	179	134	78	705	
調査対象者総数に対する%	25.2	19.3	25.4	19.0	11.0	100.0	

表2 調査対象者の年齢構成

年齢	20~24才	25~29才	30~34才	35~39才	40~44才	45~49才	50才以上
	人	8	56	196	201	153	68
%	1.1	7.9	27.8	28.5	21.7	9.6	3.3

表3 調査対象者の職業構成

職種	専業主婦	パート	会社員	公務員	自営業	農漁業	その他	無記不明
	人	243	115	124	38	111	26	44
%	34.5	16.3	17.6	5.4	15.7	3.7	6.2	0.6

表4 主人の勤務時間帯

項目	人・%	人	%
昼間勤務で特別な時間以外は夕方帰宅する		334	47.4
昼間勤務であるが週3~4回は残業がある		123	17.4
昼間、夜間の交代制(又は三交代)である		45	6.4
夜間勤務が主である		10	1.4
自営業のためほとんど在宅している		105	14.9
不在が多い(出張・単身赴任など)		28	4.0
その他		43	6.1
無記不明		17	2.4

表5 家庭生活の程度

項目	上	中の上	中の中	中の下	下	無記不明
	人	7	67	491	96	27
%	1.0	9.5	69.6	13.6	3.8	2.4

表6 家族構成

項目	夫婦二人	親子三人以上	三世同居	その他	無記不明
	人	20	425	224	29
%	2.8	60.3	31.8	4.1	1.0

表7 子供の年齢と人数

年齢	人・%			計(人)	%
	1人	2人	3人		
0~4才	96	30	7	133	13.3
5~6才	101	4	0	105	10.5
小学校1~6年	219	157	25	401	40.2
中学校以上	137	171	50	358	35.9
				997	99.9

表8 1日の自由時間

時間	人・%						
	ほとんどない	1時間以内	1~2時間	2~3時間	3~4時間	4時間以上	無記不明
人	26	34	124	186	130	192	13
%	3.7	4.8	17.6	26.4	18.4	27.2	1.8

表9 1週間の自由時間の具体的な過ごし方

2項目まで選択可

項目	人・%	
	人	%
習い事(稽古事)	57	8.1
創作趣味(手芸、絵画など)	87	12.3
園芸、盆栽	37	5.2
学習活動(読書、通信教育など)	50	7.1
音楽鑑賞(レコード、FMなど)	26	3.7
スポーツ(体を動かすこと全般)	405	57.4
近所付き合い	154	21.8
何もせず(テレビを見ながら)休養にあてる	198	28.1
その他	105	14.9
無記不明	30	4.3

表10 日常生活で充実感を感じるとき

2項目まで選択可

項目	人・%	
	人	%
家族だんらんするとき	324	46.0
仕事にうちこんでいるとき	140	19.9
ゆったりと休養しているとき	72	10.2
友人や知人と会合、雑談をしているとき	114	16.2
趣味やスポーツに熱中しているとき	486	68.9
勉強や教養に身を入れているとき	12	1.7
社会奉仕や社会活動をしているとき	12	1.7
その他	14	2.0
無記不明	16	2.3

表11 過去におけるスポーツクラブ所属の有無

項目	人・%	
	人	%
バレーボールクラブ所属の経験がある	361	51.2
バレーボール以外のスポーツクラブ所属の経験がある	210	29.8
スポーツクラブ所属の経験はない	118	16.7
無記不明	16	2.3

表12 現在のクラブへの所属年数

年	1年未満	1~2年	2~3年	3~4年	4~5年	5年以上	無記不明
	人	85	114	126	88	60	227
%	12.1	16.2	17.9	12.5	8.5	32.2	0.7

表13 クラブ加入の動機

2項目まで選択可

項目	人・%	人	%
自分から積極的に		221	31.3
友達の勧誘により		376	53.3
健康のため		304	43.1
友人(話し相手)を得るため		34	4.8
単調な日常生活からの脱皮のため		45	6.4
テレビなどのバレーの試合に魅せられて		8	1.1
人がやっているのを見てなんとなく		7	1.0
その他		11	1.6
無記不明		18	2.6

表14 加入時における精神的・身体的な抵抗の有無

項目	あった	少しあった	なかった	無記不明
人	35	207	444	19
%	5.0	29.4	63.0	2.7

表15 クラブへの参加の位置づけ

2項目まで選択可

項目	人・%	人	%
一番重要な余暇活動の場		59	8.4
健康・体力の維持の場		467	66.2
仲間との情報交換の場		101	14.3
人間形成の場		34	4.8
生活を豊かに楽しくする場		70	9.9
気分転換、ストレス解消の場		445	63.1
その他		5	0.7
無記不明		18	2.6

表16 身体的側面の変化

2項目まで選択可

項目	人・%	人	%
体調が良くなった		385	54.6
食欲が旺盛になった		52	7.4
体力が増した		127	18.0
筋肉が引きしまり美しくなった		28	4.0
健康について関心をもつようになった		171	24.3
過労気味になった		16	2.3
あまり変化はない		144	20.4
その他		24	3.4
無記不明		16	2.3

表17 精神的側面の変化

2項目まで選択可

項目	人・%	人	%
生活にゆとりがでてきた		19	2.7
日常生活にハリが出てきた		316	44.8
精神的に若返った		193	27.4
ストレスがたまらなくなり気分爽快になった		228	32.3
以前より自信を持って行動する様になった		48	6.8
社交性が増した		133	18.9
あまり変化はない		70	9.9
その他		8	1.1
無記不明		15	2.1

表18 社会的側面の変化

2項目まで選択可

項目	人・%	人	%
仲間(友人)が増えた		513	72.8
視野が広がり話題が増えた		118	16.7
地域行事への参加が積極的になった		127	18.0
集団活動の喜びを味わえるようになった		152	21.6
スポーツに対する理解が増えた		117	16.6
あまり変化はない		24	3.4
その他		5	0.7
無記不明		17	2.4

表19 家庭生活の変化

2項目まで選択可

項目	人・%	人	%
家庭の中に活気があふれてきた		101	14.3
炊事や清掃を短時間でキチッと行う様になった		240	34.0
家族も母親の行動(スポーツ, 社会的活動)を理解するようになった		342	48.5
子供達も家事に協力的になった		125	17.7
練習や試合で時間が削られ家事に手を抜くようになった		26	3.7
練習や試合で時間が削られ家庭内の会話が減った		14	2.0
あまり変化はない		113	16.0
その他		16	2.3
無記不明		23	3.3

表20 勤務後のクラブ参加の疲労度

N=462

項目	疲れる	疲れにくい	慣れると大丈夫	無記不明
人	12	227	179	44
%	2.6	49.1	38.7	9.5

表21 家庭の理解度

項目	人・%	人	%
クラブへの参加には積極的に協力してくれる		269	38.2
家庭に迷惑のかからない程度なら賛成してくれる		378	53.6
あまり協力的ではない		21	3.0
家庭(夫)は無関心である		13	1.8
無記不明		24	3.4

表22 クラブ活動に対する子供の影響

N=685

項目	ある	少しある	ない	無記不明
人	68	229	323	65
%	9.9	33.4	47.2	9.5

表23 クラブ活動時における子供への対処

N=685

項目	人・%	人	%
子供は夫か親が見てくれる		260	38.0
子供達で留守をしている		197	28.8
練習と一緒に連れていく		70	10.2
その他		66	9.6
無記不明		92	13.4

表24 クラブ仲間との交流

項目	人・%	人	%
練習以外でも数人とは親しく行ききする		437	62.0
練習後にちょっと雑談する程度である		179	25.4
いろいろな条件があり、あまり交流はない		37	5.2
地域の行事など特別な時、協同で活動する程度である		28	4.0
無記不明		24	3.4

表25 練習回数

チーム数=61

回数	月2~3回	週1回	週2回	週3回	週4回以上
数	0	26	34	1	0
%	0	42.6	55.7	1.6	0

表26 練習時間

チーム数=61

時間	1時間以内	1~2時間	2時間以上
数	0	54	7
%	0	88.5	11.5

表27 練習場までの利用交通手段

手段	徒歩	自転車	バイク又は自動車	バスなど	無記不明
人	78	181	430	1	15
%	11.1	25.7	61.0	0.1	2.1

表28 練習場までの所要時間

時間	10分以内	15分以内	20分以内	30分以内	30分以上	無記不明
人	573	81	26	4	5	16
%	81.3	11.5	3.7	0.6	0.7	2.3

表29 練習場

チーム数=61

施設	数・%	数	%
学校の体育館		51	83.6
公共(市、町、村営)の体育館		10	16.4

表30 クラブ内の目標

2項目まで選択可

項目	人・%	人	%
クラブ員の親睦を深める		333	47.2
クラブ員の健康を高める		92	13.0
クラブ員の技術向上		259	36.7
試合に勝つこと		110	15.6
楽しく皆で練習すること		307	43.5
特に目標はない		10	1.4
その他		1	0.1
無記不明		35	5.0

表31 コーチの存在

チーム数=61

項目	コーチがいる	コーチはいない
人	49	12
%	80.3	19.7

表32 コーチの必要性

項目	必要	不必要	わからない	無記不明
人	616	26	43	20
%	87.4	3.7	6.1	2.8

表33 チームのレベル

人・%	項目	人	%
	非常に強い(県大会などの代表になったりする)	24	3.4
	強い(地区大会などで時々優勝する)	134	19.0
	普通(大会に出て勝ったり負けたり程度)	410	58.2
	弱い(いつも1~2回戦で敗退又は楽しみを目的としているチーム)	134	19.0
	無記不明	3	0.4

表34 対象者の居住地

項目	人・%	人	%
市街地(街の中心地、商店街も含む)		243	34.5
中心街から少し離れた住宅地		308	43.7
ニュートウンと称される郊外にある住宅地		35	5.0
農山村地区		71	10.1
漁村地区		11	1.6
その他		14	2.0
無記不明		23	3.3